

**福島原発事故による長期影響地域の生活回復のための
福島県民と国際的な専門家との対話集会**
—放射能汚染地域における生活と環境の回復における住民参加の重要性—
議事概要

1. 開催日時

平成 24 年 11 月 3 日（土）9：30～13：00

2. 開催場所

コラッセふくしま 401 会議室（住所：福島県福島市三河南町 1 番 20 号）

3. 出席者

国際放射線防護委員会（ICRP）委員等 14 名（※別紙参照）をはじめ、環境省の他、内閣府等の政府関係者、福島県の住民を含む一般傍聴者等、合計 70 名が参加。

4. 議事概要

（1）開会の挨拶

本会合の冒頭で環境省総合環境政策局の佐藤環境保健部長から挨拶があり、原子力発電所事故で健康不安を抱える国民に対する政府の取組み等について紹介があった。その中で本年 9 月の原子力規制委員会発足に伴い、環境保健部内に放射線健康管理担当参事官室が設置されたこと、主な業務として福島県の県民健康管理調査に対する支援を行っていること等の説明があった。

本会合の開催にあたっては、リスクコミュニケーションに関して専門家が国際的な観点から福島県民と対話する機会の重要性を挙げ、本会合への期待が示された。

（2）ICRP 主委員会のカズンズ委員長より挨拶

国際的な専門家として参加したカズンズ委員長より各委員を代表して挨拶があった。ICRP の活動状況に関して、一般住民の放射線防護関係について様々な勧告や指針を出版していることや、原発の事故直後より福島との密接な関係をもつことを決定し、今回の訪問に際しては米の生産地や精米所、果樹園等を視察し、福島県立医科大学の調査を通して情報収集を行ったこと等の紹介があった。

（3）ICRP 第 4 委員会のロシヤール委員長より話題提供

ICRP 第 4 委員会委員長のロシヤール氏より、放射能汚染からの回復における住民参加の重要性について話題提供があった。主なポイントは下記のとおりである。

○事故の当事者と放射線防護について話し合うことは、被災者の抱える不安や期待を直接聞く上で必要である。

○被災者の状況を知ること、効果的な防護策を導入することが可能となる。

○対話は信頼の確保につながり、更なる議論や対話を通じて情報が提供されることで歩み寄りを促す。

なお、ICRP としては、今回の対話集会における参加者からの不安や疑問は勧告等に教訓として活用することが述べられた。

(4) 福島からの発信

(4. 1) 地方紙からの発信

○福島の今の状況を安全と考えるか、危険と考えるかについて、放射線に対する考え方の違う人たちが、県内、地域内、家庭内に混在していて、その人たちが何とかうまく折り合いをつけて日々の生活を営んでいるというのが現状である。

○安全と危険という二者択一的な状況に福島の住民を追い込まない、お互いの選択と生き方を認める、そういうものが今求められている。

○除染は恐らくチェルノブイリの経験からは導けない、日本固有、福島県固有の問題であるが、これをどのように進めていくかが、これからの復旧・復興に向けた大きな課題になるのではないかと思う。

(4. 2) 地域住民からの発信

○避難者は、何を信じて、何を目にして、どのような生活をしていいか分からない。

○農家の人は避難先でも自ら作物を育ててしまうが、その食物が安全かどうか、どの程度の放射性物質が含まれているか、認識がない。

○情報は、こうした会議や新聞、テレビ等から得ることになるが、情報ソースとして何を信じ、どのように受け入れるべきなのかが分からない。情報をもっと公表し、共有していくようにしてほしい。

○ストレスのない生活をするためには、自分なりの安全な解釈ができることが必要であり、信じられる情報を提供してほしい。

○安心して生活していくために、放射性物質と一緒に暮らしていく、共存共栄していくその仕方を教えてほしい。

(4. 3) 地域医療からの発信

- 地震により、医師会、医療機関同士の通信手段が途絶え、医師会を中心としたコミュニケーションが十分とれる状態ではなくなってしまった。
- 精神病院の医療スタッフが患者を置き去りにして 21 名の患者さんたちを亡くした、というような誤報が全国版に流れたが、こうした誤報は恐らく、様々な通信手段、行政、関連団体との連絡がとれなかったことも 1 つの大きな要因ではなかったかと思う。
- 災害時に困難を極めたのは、人工透析の患者さん対応、人工呼吸器に頼っている重傷の患者さんの対応であり、患者さんの個人情報をもどのように管理しながら、いざ災害のときにそれに対応するかが今後の大きな問題だと考えている。
- 医師、看護師が発災後少しずつ県から出ていくということにより、医療従事者が逃げていくのだから放射線被ばくの現状は県民が想像する以上に深刻だ、との誤解を招く結果となっている。

(4. 4) 除染チームからの発信

- 国は昨年 12 月に除染関係のガイドラインを発表したが、今後新たな知見が得られた場合に、ガイドラインをどうしていくかを考えていかないといけない。
- 除染対象物がいろいろあり、所有者の方々の要望にどう応えるか、除染廃棄物、除去土壌その仮置き場の確保、インフラの復旧が課題である。
- 生活圏に重点を置いた除染のスピードアップが必要だろうと思っていることであるが、そのためには人材や人員の確保が必要である。

(5) ラウンドテーブル討論・福島と国際的な専門家との対話

当該討論の冒頭で司会のロシャルル氏より、ICRP としてどんな支援ができるか、また、住民も状況を改善するために何ができるかについて議論する旨が述べられた。主な意見や質疑応答については下記のとおりである。

- 事故後、避難民には情報を得る手立てが何もなかったため、自己責任で生きてきた。こうした混乱があったがため、今、国や県の発表を信頼することができない。
- 生協関係者もチェルノブイリ等に行っているが、瞬間的に見てきた、あるいは瞬間的に相手していただいた方からの話その世界の全てであるかのように理解してしまう傾向があり、そうではないだろうということを感じている。

- 日本人は画一的な基準を求めたがるため、除染によって線量をどこまで下げることがテーマになり過ぎる。そのため、できるだけ下げのだけということを地道に話している。
- 食品の新基準の 100 Bq/kg について、CODEX、EU、アメリカ、それぞれ基準が違うが、日本の値についての評価等を聞きたい。
- 福島の悪いニュースは県外に出るが、いいニュースは外に出ていかない。
- 除染の必要性、食品等の検査の重要性について住民をもっと引き寄せる方策が必要になると思う。
- 福島県民にとっては、原発事故の被ばくを自然放射線被ばくや医療被ばくと比較されても受け入れられない。

(6) ラウンドテーブル討論を終えて

ICRP 委員のゴンザレス氏より、討論のまとめとして、科学は普遍的であるが、人の見方、視点は場所によって違うため、放射線防護の専門家としてはベストアドバイスを情報提供し続けていきたいと発表された。

以上

(別紙) ICRP 委員等一覧 (14名)

No.	名前	国籍	所属
1	Dr Claire Cousins クレア カズン (ICRP 主委員会/委員長)	英国	アデンプルック病院 医学博士
2	Acad. Abel Julio González アベル ゴンザレス (ICRP 主委員会/副委員長)	アルゼンチン	アルゼンチン原子力規制庁 シニアアドバイザー
3	Dr John D. Boice Jr. ジョン ボイス (ICRP 主委員会/委員)	米国	ヴァンダービルト大学 教授
4	Dr John R. Cooper ジョン クーパー (ICRP 主委員会/委員)	英国	英国健康保護庁 放射線センター長
5	Professor Jai-Ki Lee ジャイキ リー (ICRP 主委員会/委員)	韓国	漢陽大 教授
6	Mr Jacques Lochard ジャック ロシャール (ICRP 主委員会/委員、 第4委員会/委員長)	フランス	フランス原子力防護評価研究所 所 長
7	Dr Hans-Georg Menzel ハンス メンゼル (ICRP 主委員会/委員、 第2委員会/委員長)	スイス	欧州原子核研究機構 放射線防護グループ長
8	Dr William F Morgan ウィリアム モーガン (ICRP 主委員会/委員、 第1委員会/委員長)	米国	パシフィックノースウェスト国立研 究所 放射線生物/生物物理学ディレクター
9	Dr Ohtsura Niwa 丹羽 太貫 (ICRP 主委員会/委員)	日本	京都大学 名誉教授
10	Dr Zi Qiang Pan ズィキアン パン (ICRP 主委員会/委員)	中国	中国核工業集团公司 科学技術委員会委員長
11	Professor R Jan Pentreath ジャン ペントリース (ICRP 主委員会/委員、 第5委員会/委員長)	英国	レディング大学 名誉教授
12	Dr Nataliya Shandala ナタリア シャンダラ (ICRP 主委員会/委員)	ロシア	ブルナシヤンロシア連邦医学物理セ ンター 事務局次長
13	Professor Eliseo Vañó エリセオ バノ (ICRP 主委員会/委員、 第3委員会/委員長)	スペイン	コンプルテンセ大学 教授
14	Christopher H. Clement CHP クリストファー クレメント	カナダ	国際放射線防護委員会 (ICRP) 科学秘書